2021/11/26 (土)
北方言語学会＠静岡大学＋Zoom
研究発表 第 2 部 16:20-16:50

ウズベク語における文末小詞 *=a/=ya* の機能

日髙　晋介
(日本学術振興会特別研究員 PD／新潟大学)

0.　はじめに

本発表では、ウズベク語 (チュルク諸語南東語群) の文末小詞 *=a/=ya* を取り扱う。この小詞は、「疑問」「驚き、迷惑、後悔などの感情」(Kononov 1960: 335, Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1017-19) を表す、「確認助詞」(中嶋 2015: 159) である、と記述されている。先行研究の問題点として、次の二点が挙げられる：① *=a/=ya* が単純な疑問を表すのか不明である、② 先行研究間の記述 (中嶋 2015: 159 とそれ以外) に食い違いがある。本発表では、コーパス調査と聞き取り調査を通じて、*=a/=ya* の機能を統一的に記述することを目的とする。結論として、*=a/=ya* は、発話時に、聞き手が話し手と同様の認識を共有していると話し手が判断した文に付され、確認・詠嘆・再導入の三つの用法があると述べる。

本発表の構成は次の通りである。1 節で先行研究の概要を述べ、問題提起を行う。2 節でコーパス調査と聞き取り調査について、それぞれの調査の結果と分析を述べる。そして、3 節で調査結果・分析をもとに、*=a/=ya* の機能について考察する。最後に、4 節で本発表をまとめ、今後の課題を述べる。なお、本発表における例文番号・グロス・日本語訳・下線などの文字飾りはすべて発表者によるものである。

1.　先行研究概観と問題提起

文末小詞 *=a/=ya* は、前接要素が子音終わりの場合 *=a*、母音終わりの場合 *=ya* として現れる。先行研究には、2 パターンの記述が見られる。一つは、「疑問」「驚き、迷惑、後悔などの感情」(Kononov 1960: 335, Abdurahmonov et al. 1975: 576, Bodrogligeti 2003: 1017-19) を表すという記述である。なお、例文中の*=a/=ya* には、太字を付し、A とグロスを振る。

(1)　疑問 (Bodrogligeti 2003: 1017)：

*Bor-a=san=**a**?*
go-NPST=2SG=A
「きみは行くね？」

(2)　驚き (Abdurahmonov et al. 1975: 576)：

*Bola-ga　o'xsha-y=di=**ya.***
child-DAT resemble-NPST=3=A
「子供に似ているね。」

二つ目は、「確認助詞」として「文末で、話者の発言に対する聞き手の同意を確認する」(中嶋 2015: 159) という記述である。中嶋 (2015: 159) は、下記 (3) の例を挙げている。

(3)　*Bugun　kino-ga　bor-a=miz=**a**?*
today　movie-DAT　go-NPST=1PL=A
「今日私たちは映画に行くよね？」(中嶋 2015: 159)

先行研究による記述の問題点は、次の二つである。一つ目は、 *=a/=ya* が単純な疑問を表すのかどうかという点である。ウズベク語で、Yes/No 疑問文は、小詞 *=mi* で表される ((4)

の=*mi* に太字を付す)。

(4) *Siz* *kel-a=siz=**mi**?*

2PL come-NPST=2PL=Q

「あなたは来ますか？」(Bodrogligeti 2003: 1015)

上記 (4) では、話し手は聞き手が来るかどうか不明であるために聞き手に尋ねている。ただし、先行研究では、=*a*/=*ya* 疑問文 ((1) と (3)) と、=*mi* 疑問文との違いについては特に言及がない。

二つ目は、中嶋 (2015: 159) の記述通り、=*a*/=*ya* が「確認助詞」であるとするなら、「疑問」「驚き、迷惑、後悔などの感情」を表すという中嶋 (2015) 以外の先行研究の記述と食い違ってしまうという点である。

本発表では、これら二つの問題を克服するために、=*a*/=*ya* が持つ機能の統一的な記述を行う。

2. =*a*/=*ya* にはどんな要素が前接するか

本節では、=*a*/=*ya* に前接する要素に注目して、2 つの調査を行う。

2.1 節のコーパス調査では、コーパスにて =*a*/=*ya* の前接要素を抽出し、=*a*/=*ya* がどのような前接要素に付きうるかという特徴を記述する。この調査の結果から、=*a*/=*ya* の用法を明らかにする。

2.2 節のインフォーマント調査では、コーパス調査では現れなかった要素に=*a*/=*ya* を付して、母語話者にその例の容認度を尋ねる。この調査の結果から、=*a*/=*ya* の機能を明らかにする。

2.1. コーパス調査

コーパスの概要を述べた後に、表 1 にコーパスから抽出された前接形式の一覧を挙げる。

本発表で用いたコーパスは下記の二つである。一つは、発表者作成のコーパス (単語数 約 3 万 4 千、文字数 約 324 万) である。これは、1. インターネットニュースサイト *Ozodlik radiosi*、2. 小説 Besh qiz va bir yigit『5 人の女の子と 1 人の若者』、3. 短編集 Laude-Cirtautas (1980) から、成る。テキストエディタ内の検索機能を用いて、正規表現で検索したところ、=*a*/=*ya* の例が **7 例**ヒットした。二つ目は、O‘zbek tilining ta’lim korpusi「ウズベク語教育用コーパス」(以降、OTTK と略す) である。検索方法と用例収集方法は、次の通りである。まず、検索窓に次の形式を入力した (括弧内の数字は用例のヒット数を表す): -a!? (4), -a! (117), -a? (367), -a. (95), -ya!? (1), -ya! (70), -ya? (59), -ya. (56) 合計で、769 例を得た。本発表では、各検索形式の検索結果の 1 ページ目にある用例 (6 形式×20 例＋4 例 (-a!?)＋1 例(-ya!?) ＝ 125 例) のうち、=*a*/=*ya* を含み、かつ先行文脈が参照可能な用例 (**112 例**) を対象とする。

次に、コーパスから抽出された前接形式の一覧を表 1 に挙げる。

表 1: コーパスから抽出された前接形式の一覧

統語機能・意味				前接形式	頻度
述語	モダリティ	**2 人称命令**		*V / V-(i)ng*「してください」	10
		命題的モダリティ	**証拠性**	*V-(a)r ekan*「するらしい」	3
				N ekan「N らしい」	1
				V-sa=mi ekan「V したらどうなるだろう」	1
				N=mi ekan「N だろうか」	1
				定動詞 *emish*「N らしい」	1
				V-(i)b「したそうだ」	1
			認識的	*V-(a)r*「するだろう」	1
				V-sa kerak「するだろう」	1
	モダリティ以外	**非過去**		*V-a/-y*	20
		過去形		*V-di*	17
		名詞類		*N/Adj*	17
		条件		*V-sa* 「するなら」	16
		過去完了		*V-gan edi*	4
		存在		*bor*「ある、いる」	3
		存在過去		*bor edi*「あった、いた」	3
		現在進行		*V-yap*	2
		名詞類過去		*N edi*	1
		小詞		*N ekan=da*「N だろうなあ」	2
				V-di=ku「したなあ」	1
				V-a/-y=mi「するか」	1
述語以外				名詞句	11
				計	119

下記では、述語として用いられる形式のうち、頻度が高い形式 (表 1 の太字部分) を取り上げる。モダリティを表す形式では、2 人称命令形、命題的モダリティを表す形式の例を、モダリティ以外を表す形式では、非過去形、過去形、名詞類述語、条件形の例を、それぞれ取り上げる。述語以外の統語機能で用いられる名詞句の例も取り上げる。

2 人称命令形の例を 2 例挙げる。(5) は、2 人称命令文 10 例のうち、唯一の会話文である。

(5) – *Ha, shunchalik gap ekan=u,* – *de-di-ø kampir,* – *shu vaqt-gacha*
yes just talk EVID=and say-PAST-3 old.woman that time-until

qil-ma-gan-imiz-ni *qara***=ya.**
do-NEG-PTCP.PAST-1PL.POSS-ACC see=A

「『うん、うわさのようだ。』老婆が言った、『その時までに我々がしなかったことを見ろ。』」(Qo‘shchinor chiroqlari)

(5) では、話し手と聞き手が行わなかった行為への言及を含む文に=*ya* を付して、聞き手に注意喚起している。

他方、2 人称命令文 10 例のうち 9 例は、下記 (6) のように地の文で現れている。

(6) … *bu esa so'nggi bir necha yil ich-i-da rekord daraja-da past*
this also last one some year inside-3.POSS-LOC record degree-LOC low

narx edi-ø. Endi fermer-lar-ning zarar-i-ni bir hisobla-b
price PAST-3 now farmer-PL-GEN damage-3.POSS-ACC one calculate-CVB.SEQ

*ko'r-ing=**a**...*
see-IMP.2PL=A

「(中略) これ (サクランボ 1 キロ 5000-6000 スムという価格) は近年の中で記録的に低い価格であった。今、農民の被害を一度計算してみてください…」
(https://xs.uz/uz/post/korzinkauz-supermarketlari-tarmogi-asoschisi-eksportga-narkh-belgilash-eski-hammom-eski-tosmi［最終閲覧日 2022/06/28］)

(6) では、*=a* が付されている文の前文で、サクランボの価格について述べられており、その次の *=a* が付されている文で、サクランボに関する農民の被害を計算するように述べられている。

命題的モダリティを表す形式の例を (7) に挙げる。

(7) ある人物が同じ隊にいた仲間の母親を尋ねた時の発話：

*Siz ona-lar-i bo'l-sa-ngiz kerak=**a**. Farishta=dek ona-m bor*
2PL mother-PL-3.POSS be-COND-2PL necessary=A angel=like mother-1SG.POSS existence

de-r=di-ø, to'g'ri ekan.
say-PTCP.FUT=PAST-3 right EVID

「あなたは彼のお母さまですね。彼は天使のような母がいると言っていましたが、本当ですね。」(https://xs.uz/uz/post/zulfiya-zokirovaning-mangu-matonati［最終閲覧日: 2022/10/20］)

(7) では、「眼前にいる人が同じ隊にいた仲間の母親である」という話し手の認識に*=a* が付されている。

非過去 *V-a/-y* の例を (8) に挙げる。

(8) タシケントで売られているトマトの品種について尋ねた時の外国人の感想：

*Po'st-i xuddi plyonka-ga o'xsha-y=di=**ya**?!*
skin-3.POSS exactly film-DAT be.similar-NPST=3=A

「それ (トマトの) 皮は、まさにフィルムみたいですね (lit. フィルムに似ていますね) ？！」(https://xs.uz/uz/post/pomidor-nega-kamyob-mahsulotga-ajlanib-boryapti［最終閲覧日 2022/10/19］)

「皮がフィルムみたいである」という話し手の認識に=*ya* が付されている。発話の場で、聞き手も当該のトマトを見ている。

過去 *V-di* の例を、(9) に挙げる。

(9) ムフタル一家が避暑に訪れたキルギスのイシククル湖における、妻ホリダの発言：

— *Toshkent* *issiq-lar-i* *es-imiz-dan* *chiq-ib* *ket-di-ø=**ya**!*

PLN hot-PL-3.POSS memory-1PL.POSS-ABL go.out-CVB.SEQ leave-PAST-3=A

「タシケントの暑さを忘れてしまった (lit.タシケントの暑さが私たちの記憶から出て行った) ね！」(Issiqko'l_safari: 165)

(9)では、「タシケントの暑さを忘れた」という話し手の認識に=*ya* が付されている。

名詞類述語の例を、(10) に挙げる。

(10) *Kim=dir* *so'ra-di=ø:* — *Shu* *odam* *biz-ning* *odam=mi?*

who=INDF ask-PAST=3 this person 1SG-GEN person=Q

「誰かが尋ねた：『その人が我々 (側) の人ですか？』」

— *Albatta,* *biz-ning* *odam.*

of.course 1SG-GEN person

「もちろん、我々 (側) の人です。」

— *Nurmatov=**a**?*

PN=A

「ヌルマトフですね？」

— *Shosh-ma-ng,* *axir* *"ammo"-si-ni* *ayt-gan-im* *yo'q=ku!*

hurry-NEG-IMP.2PL finally but-3.POSS-ACC say-PTCP.PAST-1SG.POSS no=EMPH

「急がないでください、結局「しかし」とは言っていませんが！」(Munofiq)

(10) では、「我々 (側) の人はヌルマトフである」という話し手の認識に=*a* が付されている。

条件 *V-sa* の例を、(11) に挙げる。

(11) ある男の子が別の男の子の花畑で蝶を捕まえようとした時の会話：

— *Hamma* *kapalak-lar* *uy-i-ga* *qoch-ib* *ket-a=di.*

all butterfly-PL house-3.POSS-DAT run.away-CVB.SEQ leave-NPST=3

「全ての蝶が自分の家に逃げてしまう。」

— *Atigi* *bitta-si-ni* *ushla-b* *ol-sa-ø* *ham=**a?***

even one-3.POSS-ACC catch-CVB.SEQ take-COND-3 also=A

「たった一匹捕まえても (全ての蝶が逃げてしまうのか)？」

— *Ha.*

yes

「はい。」(Kapalak: 21)

(11) では、聞き手から聞いた内容の条件に=*a* が付されている。

最後に、名詞句の例を、(12) に挙げる。

(12) 新聞部の部長がとある人物の評判を雑誌部の編集長に伝える時の発話：

— *Yo'q,* *o'z-i-ni* *kecha* *ko'r-di-m.* *Avval* *u-ni*

no own-3.POSS-ACC yesterday see-PAST-1SG before 3SG-ACC

tani-mas=di=m.

know-PTCP.FUT=PAST=1SG

「いいえ、彼は昨日会った。以前は彼を知らなかった。」

— *Nega* *tani-ma-y=siz?* *Shu=nday* *o'tkir* *hamkasb-ingiz-ni=**ya**?*

why know-NEG-NPST=2PL that=like sharp colleague-2PL-ACC=A

「なぜ知らないのですか？そのような鋭い同僚を？」(Redaktsiyada_suhbat: 114)

(12) では、「聞き手はその鋭い同僚を知っているべきだ」という話し手自身の認識に=*ya* が付されている。

以上の分析から、表 2 に=*a*/=*ya* の用法をまとめる。

表 2: =*a*/=*ya* の用法

用法	前接形式	聞き手の応答	スタイル	例文番号
確認	様々な形式に付きうる ※モダリティ形式に着目すると、命題的モダリティを表す形式が多い	あり	会話	(10), (11)
詠嘆		なし		(5), (7), (8), (9), (12)
再導入	二人称命令形		地の文	(6)

表 2 の 3 つの用法について、例を挙げながら考察する。「確認」の例として、(10) を再度取り上げる。(10) では、話し手は会話の中で「我々側の人がヌルマトフである」ということを聞き手に確かめており、それについて聞き手も応答している。他の用例 (11) でも、同様である。

次に、「詠嘆」の例として、(9) について再度言及する。(9) では、話し手は、会話の中で、

「タシケントの暑さを忘れた」という話し手自身の認識に=*ya* を付して、ともに避暑に訪れた聞き手である家族に共感を求めている。ただし、聞き手の応答は特にない。これは、他の用例 ((5), (7), (8), (12)) でも、同様である。

最後に、「再導入」の例として、(6) を取り上げる。(6) では、前文で言及されているサクランボに関する農民の被害に関して計算を求める文に=*a* が付されている。(6) の次段落からは、農民の被害が詳細に計算されている。本発表では、(6) の =*a* を含む文は、次の話題を「再導入」しているとみなす。なお、地の文かつ二人称命令を持つ文に=*a*/=*ya* が付く例は先行研究で指摘がない。

インフォーマント調査へ移る前に、再度、コーパスから抽出された前接形式の一覧である表 1 に挙げた形式について述べる。コーパス調査の結果、モダリティに着目すると、命令以外に命題的モダリティ以外を表すモダリティ形式の例はない。インフォーマント調査では命題的モダリティ以外を表すモダリティ形式に =*a*/=*ya* が付きうるかを検証する。

2.2. インフォーマント調査

インフォーマント調査の概要を述べたあとに、表 3 に調査結果を挙げる。

調査の手順は次の通りである。まず、ウズベク語例文集のモダリティに関する例文 (日髙 2013: 447-484) の 30 文に =*a*/=*ya* を付した、調査票を作成する。なお、日髙 (2013) は、風間 (2011) による日本語の調査文をウズベク語母語話者が翻訳するという形で得られた例文にグロスを付したデータ集である。次に、調査票をもとに、インフォーマントに各例文を一度読んでもらい、容認度を、次の 3 段階で判断してもらう: ○言える、△自分では使わないが、他の人は使う、✕言えない。インフォーマントは、タシケント市出身の次の 3 名である: A: 男性、1992 年生、B: 女性、1983 年生、C: 女性、1994 年生。

次ページからの表 3 に全結果を示す。○＝2 点、△＝1 点、✕＝0 点とし、ABC の合計点の低い順に例を並べる。なお、左 2 列にある、モダリティの名称は、風間 (2011) による名付けに則る。

インフォーマント調査で明らかになったことは、次の 3 点である: 1. 命題的 (認識的、証拠性) のみならず、欲求あるいは事象的 (拘束的、動的) モダリティを表す形式にも=*a*/=*ya* は付きうる (表 3 の**太字**)。2. =*mi* ［疑問］が付いている例 (4 例; 表 3 の青字) は容認度が低い。なお、うち 3 例は、3 名とも✕という判断を得たが、うち 1 例 (勧誘・意向不明の例「一緒に昼ごはんを食べませんか？」) は、2 名✕で 1 名のみ○という判断を得た。3. 同一文末形式・同一モダリティを表す文 (表 3 の赤字) の間でも容認度が異なる: a. 文末形式 *V-gi kel-yap=ti*「V したい」、b. 可能 *V-(i)b ol-*「V できる」、c. 文末形式 *V-ay*「V しよう」。なお、表 3 では、色が付されている箇所に対応する容認度判断と点数のセルも、その箇所と同じ色で塗りつぶす。

表 3: 日高 (2013) におけるウズベク語のモダリティを表す文末形式と調査結果

		調査文の文末表現	ウズベク語の文末形式	A	B	C	点
拘束	推奨	(傘を) 持って出かけた方がいい	*ol-ib* *ket-gan-ing* *yahshi* take-CVB.SEQ leave-PTCP.PAST-2SG.POSS good	×	×	×	0
欲求	勧誘 意向 不明	(一緒に昼ごはんを) 食べませんか	*ye-ma-y=miz=**mi*** eat-NEG-NPST=1PL=Q	×	×	×	0
欲求	1 人称 命令	(僕にもそれを少し) 飲ませろ	*ich-sa-m* *mayli=**mi*** drink-COND-1SG okay=Q	×	×	×	0
欲求	希望	(私は) 何か食べたい	**a.** *ye-gi-m* *kel-yap=ti* eat-VN-1SG.POSS come-PROG=3	×	×	△	1
欲求	懇願	(そのペンをちょっと)貸していただけませんか？	*ber-ib* *tur-ol-ma-y=siz=**mi*** give-CVB.SEQ stand-POT-NEG-NPST=2PL=Q	×	×	△	1
拘束	禁止	食べてはいけない	*yey-ish-ing* *kerak* *emas-ø* eat-VN-2SG.POSS necessary NEG-3	×	△	△	2
欲求	勧誘	じゃあ，一緒に昼ごはんを食べましょう	*Birga* *tushlik* *qil-aylik* together lunch do-IMP.1PL	△	△	×	2
欲求	勧誘 意向不明	(一緒に昼ごはんを) 食べませんか	*tushlik qil-ma-y=miz=**mi*** lunch do-NEG-NPST=1PL=Q	×	×	○	2
欲求	1 人称 命令	(僕にもそれを少し) 飲ませろ	**c.** *ich-ay* drink-IMP.1SG	×	△	△	2
動的	状況 可能	((明かりが暗くて) ここに何て書いてあるのか) 読めない	**b.** *o'qi-y* *ol-ma-yap=man* read-CVB.CNT take-NEG-PROG=1SG	△	×	○	3
拘束	許可	帰ってもいいですよ	*qayt-sa-ng* *ham bo'l-a=di* return-COND-2SG also become-NPST=3	△	×	○	3
拘束	禁止	(それを) 食べるな	*ye-ma* eat-NEG	×	○	△	3
欲求	希望 制御不能 3 人称	(明日) 良い天気になるといいなあ	*havo* *yaxshi* *bo'l-sa* *yaxshi* *edi-ø* weather good become-COND good PAST-3	△	○	×	3
欲求	勧誘	(じゃあ、) 一緒に昼ごはんを食べましょう	*Birga* *ovqat* *ye-ylik* together meal eat-IMP.1PL	×	○	△	3
認識	可能性	(さあ (昼間だからあの人は家に) いないかもしれない	*uy-da* *bo'l-maslig-i* *mumkin* home-LOC be-VN.NEG-3.POSS possible	×	○	△	3
拘束	義務	(私たちはもう) 帰らなければならない	*qayt-ish-imiz* *kerak* return-VN-1PL.POSS necessary	△	○	△	4

拘束	評価的義務	(子供の) 言うことを聞くべきだ／ものだ	*ayt-gan-i-ni* *qil-ish* *kerak* say-PTCP.PAST-3.POSS-ACC do-VN necessary	○	△	△	4
欲求	意志	私が持ちましょう.	**c.** *Men ko'tar-ay* 1SG lift-IMP.1SG	△	○	△	4
欲求	3 人称命令	(これはあの人に)持って行かせろ／持って行かせよう	*ol-ib* *bor-sin* take-CVB.SEQ go-IMP.3SG	△	○	△	4
欲求	命令	(すぐに)それを持って来なさい	*u* *narsa-ni* *ol-ib* *kel* that thing-ACC take-CVB.SEQ come	×	○	○	4
認識	疑念	(きっと途中で車が)壊れたんじゃないか	*buz-il-gan* *bo'l-sa-ø* *kerak* break-PASS-PTCP.PAST be-COND-3 necessary	×	○	○	4
拘束	禁止	食べてはいけない／食べるな	*yey-ish-ing* *mumkin* *emas=ø* eat-VN-2SG.POSS necessary NEG=3	○	△	○	5
拘束	評価的義務	(子供の) 言うことを聞くべきだ／ものだ	*ayt-gan-i-ni* *qil-a=dilar* say-PTCP.PAST-3.POSS-ACC do-NPST=3PL	○	△	○	5
欲求	希望 制御不能 3 人称	(明日) 良い天気になるといいなあ	*havo* *yaxshi* *bo'l-sa* *edi-ø* weather good become-COND PAST-3	△	○	○	5
認識	確認	(彼らはもう) 着いているはずだ／(もう)着いたに違いない	*bor-gan* *bo'l-ish-i* *kerak* go-PTCP.PAST be-VN-3.POSS necessary	△	○	○	5
			bor-gan-i *aniq* go-PTCP.PAST-3.POSS clear	△	○	○	5
欲求	希望 3 人称	(あの人は街へ) 行きたがっている	**a.** *bor-gi-si* *kel-yap=ti* go-VN-3.POSS come-PROG=3	○	○	○	6
動的	能力可能	あの人は中国語が読めます／中国語を読むことができます	**b.** *o'qi-y* *ol-a=di* read-CVB.CNT take-NPST=3	○	○	○	6
認識	推量	(あの人は今日はたぶん) 来ないだろう	*kel-ma-sa-ø* *kerak* come-NEG-COND-3 necessary	○	○	○	6
証拠	判断	((額に触ってみて)どうもあなたは熱が) あるようだ	*bor-ga* *o'xsha-y=di* existence-DAT be.similar-NPST=3	○	○	○	6

表 3 直前の段落で、この調査から明らかになったことを述べた。それから得られる帰結は、***=a/=ya* は、様々なモダリティを表す形式にも付されうる**ということである。つまり、前接要素とモダリティの種類は*=a/=ya* の機能に直接関係しないということと、モダリティではなく他の何らかの要素が容認度に関わっているということが推測される。

3. *=a/=ya* の機能と用法を検討する

本発表では、2 節での調査結果をもとに、*=a/=ya* の機能を「*=a/=ya* は、発話時に、聞き手が話し手と同様の認識を共有している、と話し手が判断した文に付される」と記述する。

インフォーマント調査から得られた 2 つの分析結果を用いながら、*=a/=ya* の機能についての記述を裏付ける:① 同じ文末形式・同じモダリティを表している形式を有する二文間で容認度が大きく異なる例がある、② *=mi*［疑問］が付く文は容認度が低い。

まず、① について述べる。次の a.～c. の 3 パターンが見られる。例文番号の隣に容認度の点数を記し、その隣には点数の内訳とモダリティの種類を記す。

a. 文末形式 *V-gi kel-yap=ti*「V したい」:

(13) 容認度 **1 点** (△1 名、×2 名; 欲求、希望):

Qorn-im *och-di-ø.* *Shu-ning uchun* *nima=dir* *ye-gi-m* *kel-yap=ti=**ya**.*

stomach-1SG.POSS empty-PAST-3 that-GEN for what=INDF eat-VN-1SG.POSS come-PROG=3=A

「私は何か食べたいね (lit. 食べることが来ているね)。」

(14) 容認度 **6 点** (○3 名; 欲求、希望 3 人称)

Ana *u* *odam* *shahar-ga* *bor-gi-si* *kel-yap=ti=**ya**.*

very that person city-DAT go-VN-3.POSS come-PROG=3=A

「あの人は町へ行きたがっているね (lit. 行くことが来ているね) 。」

b. 可能 *V-(i)b ol-*「V できる」:

(15) 容認度 **3 点** (✕△○各 1 名; 動的、状況可能):

Chiroq juda xira. *Shu-ning uchun* *bu yer-ga* *nima deb yoz-il-gan-i-ni*

light very unclear that-GEN for this place-DAT what QT write-PASS-PTCP.PAST-3.POSS-ACC

o'qi-y *ol-ma-yap=man=**a**.*

read-CVB.CNT take-NEG-PROG=1SG=A

「明かりが暗い。だから、(私は) ここに何と書かれているのか読めませんね。」

(16) 容認度 **6 点** (○3 名; 動的、能力可能):

U *odam* *xitoy* *til-i-ni* *o'qi-y* *ol-a=di=**ya**.*

that person chinese language-3.POSS-ACC read-CVB.CNT take-PROG=1SG=a

「その人は中国語を読むことができますね。」

c. 文末形式 *V-ay*「V しよう」:

(17) 容認度 **2 点** (△2 名、✕1 名; 欲求、1 人称命令):

Men *ham ozgina ich-ay=**a**.*

1SG also little drink-IMP.1SG=A

「私も少し飲もうね。」

(18) 容認度 **4 点** (△2 名、○1 名; 欲求、意志):

*Men ko'tar-ay=**a**.*

1SG lift-IMG.1SG=A

「私が持ちましょうね。」

容認度の低い用例では、発話までに聞き手に共有されにくいであろう話し手の欲求 ((13), (15))・状況 (17) が述べられている。一方、容認度の高い用例では、3 人称主語の欲求 (14)・3 人称主語の能力 (16)、聞き手に対する提案 (18) が述べられている。これらは、発話までに聞き手に共有されうると考えられる。したがって、本節の冒頭で述べたように、*=a/=ya* は、発話時に、聞き手が話し手と同様の認識を共有している、と話し手が判断した文に付される、と言える。

次に、② *=mi*［疑問］が付く文は容認度が低いという点について述べる。(19) に例を挙げる。

(19) **Birga tush-ki ovqat-ni ye-ma-y=miz=mi=**ya**.*

together day-ADJLZ meal-ACC eat-NEG-NPST=1PL=Q=A

［意図した読み：一緒に昼ご飯を食べませんかね。］

このような文の容認度が低いのは、*=mi* は典型的な疑問 (話し手にとって不明なことを明らかにするために聞き手に問いかける) に用いられるためである。*=a/=ya* は、発話時に、聞き手が話し手と同様の認識を共有している、と話し手が判断した文に付くために、話し手にとって不明な点を尋ねる文にはなじまないと考えられる。

4. おわりに

本発表の分析と考察をまとめ、用法を再検討してから、今後の課題を述べる。

コーパス調査と聞き取り調査を通じて、*=a/=ya* の統一的な機能と、用法 (表 2 再掲) を明らかにした。

***=a/=ya* の機能：**

発話時に、聞き手が話し手と同様の認識を共有している、と話し手が判断した文に付される。

表 2 (再掲) :*=a/=ya* の用法

<table>
<tr><th>用法</th><th>前接形式</th><th>聞き手の応答</th><th>スタイル</th><th>例文番号</th></tr>
<tr><td>確認</td><td rowspan="2">様々な形式に付きうる
※モダリティ形式に着目すると、命題的モダリティを表す形式が多い</td><td>あり</td><td rowspan="2">会話</td><td>(10), (11)</td></tr>
<tr><td>詠嘆</td><td rowspan="2">なし</td><td>(5), (2)(7), (8), (9), (12)</td></tr>
<tr><td>再導入</td><td>二人称命令形</td><td>地の文</td><td>(6)</td></tr>
</table>

それぞれの用法について、機能の面から再度考察を述べる。

「確認」の例である (10) では、話し手が知りたい情報である「その人が誰であるか」を聞き手が知っており、会話の中で話し手は「(我々 (側) の人は) ヌルマトフである」と考え、その文に=*a* を付して、その考えの是非を聞き手に確かめている。このように、「確認」では、**聞き手と共有していると話し手が考えている認識を聞き手に確かめている**といえる。**この用法では、聞き手が =*a*/=*ya* で終わる文へ回答している。**

「詠嘆」の例である (9) では、ムフタル一家がタシケントからキルギスのイシククル湖へ避暑に訪れた際に、妻ホリダが「タシケントの暑さを忘れてしまった」と述べている。ホリダは、一緒に避暑に訪れた家族も同様に感じているであろうと考えた認識を含む文に=*ya* を付して、聞き手である家族にその認識を示している。このように、「詠嘆」では、**聞き手と共有していると話し手が考えている認識を聞き手に示す**といえる。**ただし、聞き手は =*a*/=*ya* で終わる文へ回答していない。**なお、(20) のように、独言の例も見られる。

(20) ... *ber-sa-m=mi* *ber-ma-sa-m=mi?* *Darhaqiqat,* *qanday* *yo'l* *tut-sa-ø,* *to'g'ri*
give-COND-1SG=Q give-NEG-COND-1SG=Q actually how way catch-COND-3 right

bo'l-a=di=a*?*
be-NPST=3=A

「(前略) 与えたら？与えなかったら？一体、どうすれば、正しいんだ？」(Musulmon)

表 2 (再掲) の上にある機能についての記述では、聞き手がいることを前提として記述されているが、(20) のように聞き手がいなくても、話し手自身が聞き手となっていると解釈すれば、例外ではない。

「再導入」の例である (6) では、前文で言及されているサクランボに関する農民の被害に関して計算を求める文に=*a* が付され、この文の次段落から、農民の被害が詳細に計算されている。したがって、「再導入」は、**既出の内容に関連する =*a*/=*ya* の後に続く内容について、読み手の注意を引く**といえる。なお、「再導入」は地の文に限られる。

本発表では、文末小詞 =*a*/=*ya* の機能の統一的な記述を試みた。今後は、=*a*/=*ya* に限らず、モダリティ表現と各文末小詞 =*a*/=*ya*, =*da*, =*ku*, =*chi* との相互関係の解明を進めていく。

謝辞

予稿を作成するにあたって、風間伸次郎氏から有益なコメントを頂いた。また、3 名のウズベク語母語話者からは、本発表における調査にご協力いただいた。深く感謝申し上げる。ただし、本発表における全ての過失は全て発表者に帰する。なお、本研究は JSPS 科研費 22H00657 と JP22J01538 の助成を受けている。

略号一覧

-		接辞境界	EMPH	emphatic	強調	PLN	place name	地名
+		接語境界	EVID	evidential	証拠性	PN	person name	人名
1		1 人称	FUT	future	未来	POSS	possessive	所有
2		2 人称	GEN	genitive	属格	POT	potential	可能
3		3 人称	IMP	imperative	命令	PROG	progressive	進行
ABL	ablative	奪格	INDF	indifinite	不定	PTCP	participle	形動詞
ACC	accusative	対格	LOC	locative	処格	Q	question marker	疑問標識
ADJLZ	adjectivalizer	形容詞化	NEG	negative	否定	QT	quotation marker	引用標識
CNT	continueative	継続	NPST	non-past	非過去	SEQ	sequential	継起
COND	conditional	条件	PASS	passive	受動	SG	singular	単数
CVB	converb	副動詞	PAST	past	過去	VN	verbal noun	動名詞
DAT	dative	与格	PL	plural	複数			

参考文献

Abdurahmonov, G‘. A., Sh. Sh. Shoabdurahmonov, and A. P. Hojiyev (1975) *O‘zbek tili grammatikasi I-tom Morfologiya.*［ウズベク語文法 第 1 巻 形態論］Toshkent: O‘zbekiston SSR “Fan” nashriyoti.

Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek.* München: Lincom Europa.

日髙晋介 (2013)「ウズベク語 : 補遺データ (受動表現, ヴォイスとその周辺, モダリティ) (データ)」『語学研究所論集』18: 467–85.

風間伸次郎 (2011)「まえがき―テーマ企画: 特集「モダリティ」」『語学研究所論集』16: 29–55.

Kononov, Andrej N. (1960) *Grammatika sovremennogo uzbekskogo literaturnogo jazyka.*［現代標準ウズベク語文法］Moskva, Leningrad: Izdatel’stovo akademii nauk SSSR.

中嶋善輝 (2015)『簡明ウズベク語文法』大阪: 大阪大学出版会.

調査資料

Beknazarov, O‘roz va Ismoil Yuldashev (2007) *Besh qiz va Bir yigit.*［5 人の女の子と 1 人の青年］Toshkent: Cho‘lpon nomidagi nashriyot-matbaa ijodiy uyi.

Laude-Cirtautas, Ilse. (1980) *Chrestomathy of Modern Literary Uzbek.* Wiesbaden: Harrassowitz.

Ozodlik radiosi (http://www.ozodlik.org)［最終閲覧日: 2022/11/13］

O‘zbek tilining ta’lim korpusi「ウズベク語教育用コーパス」(http://uzschoolcorpara.uz)［最終閲覧日: 2022/11/13］